

21 馬王堆三号漢墓出土の胎産書について

米倉 亮

一九七三年湖南省長沙市の馬王堆三号漢墓から多数の医書が出土した。墓の主は長沙丞相軼侯利蒼の子である。文帝の前元十二年、前一六八年に亡くなったとされているので二千数百年昔のことである。絹に書かれた帛書にはもともと書名はなく、胎産書も帛書整理チームによって命名されたものであり三四行からなっている。妊娠、出産、胎盤の処理、男女生みわけ等古代中国の生活の息吹きを感じる。

「禹問幼頰曰我欲植人産子何如而有幼頰合曰」「月朔已去汁□三日中從之有子」

月経終了後三日以内に交合すれば子供ができるというのである。しかしながら

「入於冥冥出於冥冥乃始為人」

幽暗ではつきりと見ることができない。これは『医心方』巻二二に「人之始生。生於冥冥。」と『産経』より引用されている。人が生を受け始めるのは冥冥においてであり、そこで形になるのである。

妊娠一ヶ月は「留刑、財貞」といい、飲食は必ず上質のものを取り、酸っぱい物や、料理も必ず火を通すこと、辛いもの、魚の生臭いものは食べないことである。

妊娠二ヶ月は「始膏」といい、牛、羊等の生臭いものを食べないこと、居室は安静にして男子との交合は禁止する。

妊娠三ヶ月は「始脂」といい、瓜の形に似ており、まだ人の形になっていない。

「見物而化是故君公大人母使朱儒不覩木候」見たもの、接したものによって胎児の将来の外見及び人格を決めることになる。

妊娠四ヶ月は水の精を受けて血脈になる。稻、麦を食べ、鰻を食べる。

妊娠五ヶ月は火の精を受けて気になる。睡眠をよくとり、遅く起きて、沐浴し、部屋に居ても暖かい服を着、

朝の天光を吸い、風邪をひかないようにする。

妊娠六ヶ月は金の精を受け、筋が出来る。体を動かし、野外に遊び、走る犬や馬を見る。

妊娠七ヶ月は木の精を受け、骨が出来る。乾燥した所で生活し、手足を動かし体を停止させないで気血を運行させる。体を冷すものをさけ、骨を強くし、歯を丈夫にする。

妊娠八ヶ月は土の精を受け皮膚が出来る。

妊娠九ヶ月は石の精を受け柔かい毛が出来る。

妊娠十ヶ月は気を丹田に納め生まれる時機である。

胎盤の処理方法については

「凡治字者以清（水）翰包」「必孰洒翰（胞）有以洒翰

先ず清水で胞衣を洗滌して清潔にしてから、更にもう

一度酒で胞衣を洗う。このことは『医心方』二三に引用された『産経』の中にもこのやり方がある。

「以瓦甌毋令虫蛾能入」

素焼の深い碗に入れて、虫、蟻などが入れないようにすると、生まれた子に瘡瘍がなく、肌のきめが細かく、しなやかである。又胞衣を蓆に包んで地下に埋めると皮

膚病にならないと。

「字而多男母女者而欲女包狸陰垣下」

「多女母男亦反（胞）狸陽垣下」

次に欲する男女児によって胞衣を埋める場所を異にする。

又白い雄犬の頭、馬肉を食べると、胎児の發育を促進するという。

妊娠三ヶ月になったときに、青蒿、杜衡、桑螵蛸三つを搗きつぶして飲むと必ず男の子を産むことが出来る。

これは既に試みられたことであり、万全であるという。

又一つには尿を半升排泄して、（子宮が）堅くなり、出血が少ないとのべている。

蜂の巢中の幼虫と犬の陰茎を、干してすりつぶして妊婦に飲ませると男の子を産むことができるという。

『胎産書』が八百年を経て『諸病源候論』（六一〇）『千金要方』（六五〇―六五八）『医心方』（九八四）に甦ったのも驚きである。

（米倉医院）